フィリピン・セブ ニュースレター VOL・4

カムスタカ？（セブアノ語で、お元気ですか？）

フィリピンはセブ北部へ派遣中の０-４病棟の加藤です。 日本と同じく暑い日が続くセブ島からニュースレターをお届けします。

今回のテーマは・・・

「船を乗り継ぎ、離島の事業地ヒランタガンへ」です。

いざ離島の事業地へ

私は、セブ北部での地域保健衛生事業に携わっています。この事業では 15 の村が対象地域ですが、特徴的なのは、そのうちの８つが島ということです。

今回訪れたヒランタガンという小さな島。セブ本島の港から、約 1 時間半、大型フェリーに乗ります。その後、到着した港で、「バンカー」と呼ばれる竹でできた小さな舟に乗り替え、波に揺られること片道 20 分。このバンカーが、島の人々の唯一の移動手段になります。

大型フェリーに乗り込みいざ出発！

こちらがバンカー。フェリーとは異なり、揺れや水しぶきが強め。濡れてもいい恰好が必要になります。

小さな島で奮闘するボランティア

こうしてようやくヒランタガンに降り立つことができました。透き通るような美しい海に囲まれるヒランタガン。南北に 6.8km、東西に 2.5km の小さなこの島には、約 3700 人の住民が住んでいます。

しかし、この島の保健施設には医師や看護師は常駐していません。天気が悪い日は、バンカーは欠航してしまいます。そんな時に、もし誰かが病気になったり大けがをしたら・・。

その時は、「住民自らで地域の人々を守る」必要があります。

笑顔で出迎えてくれたボランティア

本事業の活動の中心となるのはその地域に住むボランティア。地域のことを一番よく知る住民にボランティアになってもらうことにこそ意味があるのです。ボランティアが本事業の活動を通して「自分達を守るための技術や知識」を身に着け、それを他の住民へ広げていく・・・というわけです。

中央に立っているのがフィリピン赤十字社の現地スタッフのロナ。元教師である彼女のプレゼンカは、スタッフの中でもピカイチ。

会議に参加するボランティアの姿は真剣そのもの。

この日私は、現地スタッフとボランティアの月例会議に参加しました。3 月よりボランティアは世帯調査を行っており、今日はその結果を報告する日でした。世帯調査とは、各世帯がどんな生活を送っているのかを調査するというものです。ヒランタガンにある約 1800 軒を、たった 19 名のボランティアで行うのです。ボランティアは、仕事や家庭の用事を調整しながら、焼けるような日差しの中、各世帯を 1 軒 1 軒回り調査をしました。

ヒランタガンのボランティアに会うのは、日赤要員として今回が初めてのことでした。地域の人のために、時間と根気のいる作業をやり遂げたボランティアに会うことができ、胸が熱くなりました。

自転車に乗り世帯調査を行うボランティア達

これからボランティアは、病気についての学びを深めていきます。そして 8 月には、彼らが中心となり、地域住民に向けて健康教育を行います。どんな発表になるのか、今からとても楽しみです。

「私たちの活動はいつか地域の人のためになると信じて頑張りましょう」とボランティアに伝えるよう心掛けています

要員の仕事

要員の大切な仕事の一つが、毎月の報告書の提出です。日本語のものもあれば英語のものもあります。看護師としての勤務と比べると、机に座りパソコンに向かう時間は遥かに長いです。肩こりがひどくなったような気がします・・。

現地スタッフも英語で報告書を作成し毎月フィリピン赤本社へ提出していますが、私はこの作成にも積極的に協力しています。現地スタッフのデータ分析やアセスメント力が UP できるようなアドバイスを行っています。

現地スタッフと話し合う様子

«帰国報告会のお知らせ»

8 月 30 日（木）に山崎記念講堂にて行います。是非ご参加ください♪

2018 年 7 月　加藤加奈子